

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成26年8月4日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 工学研究科・都市環境工学専攻

職 名 教授

氏 名 伊 藤 禎 彦

助成の種類	平成26年度 ・ 研究成果公開支援 ・ 国際会議開催助成			
事業内容	第23回韓国科学技術院-京都大学-国立台湾大学-国立シンガポール大学 環境工学シンポジウムの開催			
開催期間	平成26年7月3日 ～ 平成26年7月4日			
開催場所	京都大学百周年時計台記念館			
参加者	64名	内 訳 国外参加者:26名 国内参加者:24名 国内特別参加者:3名, 聴講生:11名		
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プログラムおよび要旨集)			
会計報告	事業に要した経費総額	1,402,500 円		
	うち当財団からの助成額	750,000 円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 参加者からの登録料, エクスカーション費		
	経費の内訳と助成金の用途について			
		費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
		会場・会議費	293,952	293,952
		印刷製本費	101,189	101,189
		交通費	196,730	96,700
		謝金	234,000	173,648
		消耗品費	104,213	80,021
	その他	19,494	4,490	
	レセプション・エクスカーション費	452,922	0	
	合計	1,402,500	750,000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)			

第23回韓国科学技術院-京都大学-国立台湾大学-国立シンガポール大学 環境工学シンポジウムの開催

2014年7月3日、4日に、第23回韓国科学技術院-京都大学-国立台湾大学-国立シンガポール大学（KAIST-KU-NTU-NUS（KKNN））環境工学シンポジウムを百周年時計台記念館で開催した。本シンポジウムは京都大学大学院工学研究科および地球環境学堂の共催とし、京都大学教育研究振興財団の後援により開催された。

大韓民国、日本、台湾、シンガポールを代表する環境工学の専門家が集まり、最新の研究成果についてシンポジウム形式で発表し討議を行った。韓国科学技術院（KAIST）、国立台湾大学（NTU）および国立シンガポール大学（NUS）の3大学から26名の参加者があり、京都大学など国内からの38名を加えて、合計64名で活発な議論を行った。

シンポジウム初日の第1セッションでは、水問題について3件の口頭発表が行われた。国立シンガポール大学のJiangyong Hu博士は海水の淡水化におけるバイオフィルム形成に対する消毒剤の効果について発表した。第2セッションでは10件のハイブリット発表（8分間の口頭発表の後、ポスターによる討議）が行われた。第3セッションでは難分解性有機化合物と処理方法について、同じく10件のハイブリット発表が行われた。第4セッションでもさらに9件のハイブリット発表が行われ、合計29件のポスターが会場に設営され、フロアでの活発な議論が展開された。第5セッションでは、化学反応に関する3件の口頭発表が行われた。



参加者による集合写真

初日のシンポジウム終了後、聖護院御殿荘に移動し、純和風のレセプションが行われた。各テーブルではすき焼きに関していろいろな質問が英語でなされ、それに回答しながら、すき焼き鍋を振舞う日本人学生、教員の姿が見られた。すべてのメンバーによる自己紹介を行い、翌年の開催ホスト国の台湾国立大学から、来年度の開催に関する抱負が語られた。

シンポジウム2日目は、第6セッションにて地球温暖化に関する4件の口頭発表が行われた。第7セッションでは廃棄物からの資源回収に関する3件の口頭発表が行われた。その後、KKNNの運営会議が開かれ、翌年の開催時期など詳細について議論が行われた。

京都大学地球環境学堂の実験室の見学会の後、バスを借りて滋賀県草津市のし尿処理場の見学会を実施した。し尿処理場では資料を用いた説明の後、実際の処理施設の見学が行われた。その後、瀬田川に移動し、琵琶湖の見学のため乗船した。琵琶湖は日本最大の湖であると同時に古代湖として世界的に有名な湖であり、かつての水質汚濁から現在の水環境を手に入れるまでの歴史が説明された。40年前は泡立ち悪臭が立ち上った湖に対して行われた対策について、参加者から多くの質問が向けられた。また、周囲の都市化にも関わらず、澄んだ水質を保っている日本の水環境保全施策について関心が向けられた。船の上では、学生を対象にしたプレゼンテーション賞などの表彰式が行われた。本シンポジウムでさまざまな経験を積んだ学生が将来、国際学会等で活躍し、本KKNNシンポジウムに再び戻ってきてくれることを期待している。



口頭発表時の会場の様子